

平成21年第2回 3月定例会 - 03月03日-01号

○議長（大西洋平） これで質疑を終わります。

次に、産業建設常任委員会よりお願いいたします。

山田委員長。

◆産業建設常任委員会委員長（山田勝則） 産業建設常任委員会委員長報告を行います。

平成20年12月25日午前9時30分から、全員出席で開催しました。

その結果については次のとおりです。

1、水道事業、上水道受水先について。

現在、倉敷市から上水道の分水を受けている金光地区も西南水道企業団から受水できるかどうか、平成19年8月に、西南水道企業団の管理者である笠岡市に打診していました。その結果、平成20年12月18日に笠岡市から浅口市に、市が要望している1日最大5,000立方メートルを配分することについて、今後協議したいとの回答がありました。市としては、今後事務レベルでの協議を始めたいとのことでした。委員からは、受水先を変更することのメリット、デメリットを検証し、示してほしいとの要望がありました。

次に、平成21年1月16日午前9時30分から、全員出席で開催しました。

その結果については次のとおりです。

1、洪水調整池復旧工事について。

工事完成後に崩落沈下した鴨方駅南の洪水調整池について、設計から現工法で使用しているアクアトラップという部材を採用するに至った経過を、資料をもとに執行部から説明がありました。今後は、2度の崩落事故を踏まえ、一層安全な構造物の設計を専門業者に委託し、その後の工事については施工業者の責任で復旧してもらうように交渉するとのことでした。委員からは、原因究明と設計変更は市で行い、事故のない完全なものを早急に復旧させるようにとの意見がありました。

続いて、平成21年2月16日午前9時30分から、全員出席で開催しました。

その結果については次のとおりです。

1、鴨方駅及び駅周辺整備事業について。

JR山陽本線鴨方駅自由通路等設置及び橋上化の施行について、浅口市と西日本旅客鉄道株式会社との間で締結する予定の協定書（案）を執行部が説明し、総額14億4,077万3,000円のうち、浅口市が14億1,875万6,000円、西日本旅客鉄道株式会社が2,201万7,000円を負担する等の説明がありました。委員からは、市が費用を負担する工事を西日本旅客鉄道が代行発注するのは工事費の透明性を欠くのではないか、また工事施工に伴う損害の負担についても協議するようにとの意見がありました。

以上、概略を報告いたします。

平成21年3月3日、産業建設常任委員会委員長山田勝則。

○議長（大西洋平） それでは、産業建設常任委員長からの報告についての質疑を行いま

す。

質疑はありませんか。

9番柚木議員。

◆9番（柚木毅） 9番柚木毅です。

委員長の報告に対して質問をいたします。

鴨方駅及び駅周辺整備事業についてお尋ねをいたします。

この事業に対して、執行部から協定書（案）の内容について説明があったことはわかりました。この協定書（案）で締結することに対し、委員会ではどのような審議内容だったのか、再度、詳細に説明をお願いいたします。

○議長（大西洋平） 委員長。

◆産業建設常任委員会委員長（山田勝則） 委員会において協議された事項について、概略御説明いたします。一言一句ということになりますと、会議録の作成を待っていただかなきゃならないと思いますので、多少の概要ということでお許しいただきたいと思います。

当委員会におきましては、市側より協定書、計画平面図、事業費、工事費概算額等の説明がありました。

概要としましては、鉄道建設、駅舎ホーム等の拡幅はJRが施工する、通路部分はJRの代行発注とするということです。工事費は今申しあげましたように14億4,077万3,000円、浅口市が14億1,875万6,000円負担すると、JRが2,201万7,000円負担するということです。それから、工事施工に伴う損害が発生した場合、JRの重大な責でない場合は浅口市の負担とすると。調印後、市議会の議決を得るまでは仮協定ということであるということが、おおむね執行部のほうから説明いただきました重要事項かと思われま。

それに対する委員からの意見、要望ということではありますが、地元業者をできるだけ多く発注してほしい、これは不況の中であるので、地元業者にできるだけ、市の工事でありますから多くの工事を発注してほしいというふうなことが出されております。さらに、工事を発注するに当たり、透明性の確保、説明責任を果たしてほしい、それから経済性、節約という面、それから透明性確保の上から、代行発注部分については市が入札するということにできないかということ、それから損害負担の条項で、代行発注等々工事を浅口市をしないのに、浅口市がその工事の損害負担をするのはおかしいのではないかと、その件について見直してほしいと、そういったことが委員から要望として出され、議論されたところであります。

○議長（大西洋平） どうぞ。

◆9番（柚木毅） JRとの協定書の締結日が2月19日と決まっていたのであれば、本委員会で、調印することについて委員の皆さんに対しての意見を聞くべきではなかったのかと、このように思います。お尋ねいたします。

○議長（大西洋平） 委員長。

◆産業建設常任委員会委員長（山田勝則） これは、今重要事項で申し上げましたが、協定書に、14条だったですか、市議会の議決を得るまでは仮協定であるということであり
ます。

16日の委員会には、仮協定（案）を説明をいただいたわけでありますから、これについて委員の皆さんが意見を述べることは、市民の皆さんの関心の高いことでありますから、当然意見を求めることであろうかと思えます。

それにつきまして、議決をとということでありますが、議会がこれを議決しますと、仮協定（案）であり、まだ仮協定の調定も結ばれてない事項につきまして、意見を聞くというのはあろうかと思えますが、議決をとると、決をとるとということは事前協議になりますので、するべきではないと考えております。

○議長（大西洋平） 柚木議員。

◆9番（柚木毅） この事業は旧鴨方町からの懸案の事業でもあり、区画整理組合の方々はもちろん、多くの市民の皆さんが締結を今か今かと待っていたと思えます。JRとの調印の場に欠席すると言われたそうでございますが、それは仮協定に反対ということでしょうか、いかがでしょうか。

◆産業建設常任委員会委員長（山田勝則） どういった趣旨の質問かさっぱりわかりませんが、仮協定について出席する、しないと、今も申し上げましたように、本協定が、仮協定が調印でき、本議会に議案提案されまして初めてこれは審議する事項でありますし、それにつきまして、私が欠席とか出席とかというお話がありますが、これは執行部が締結することでありまして、議会が締結することではありません。案として出てきてないものに、まだ委員会の中でどのようになるか審議をしないものに対して、上程もされてない、付託もされてないものに対して、私は当然出るべきではないと考えております。

○議長（大西洋平） 次、ありませんか。

原議員。

◆7番（原彰） 続いて、7番原がお伺いいたします。

先ほどの委員長報告には、協定書（案）についての執行部の説明に対しては、賛成の意見も多数出たと聞いておりますが、委員長報告には一行として書かれていなかった。これはどうしてなのでしょう。

○議長（大西洋平） 委員長。

◆産業建設常任委員会委員長（山田勝則） 賛成といいます。これ、午前中の委員会で終わっておりますが、決をとろうかということにおきましては、委員長報告にありますように、今申し上げましたように、決をとるべき事項でないものですから、意見についてあったということであります。当然、賛成という意見もありましたし、いろんな意見もありました。具体的な事項として申し上げたのが、今委員長報告に書いた事項でございます。

○議長（大西洋平） どうぞ。

原議員。

◆7番（原彰） いわゆる先ほどの委員長の報告書を読んだり、聞いたりする限りにおいては、産業建設常任委員会が駅の橋上化にいろいろと文句をつけているらしいといった印象を与えてしまっていると私は思うんですよ。多くの人たちに誤解をさせてはいけないと思いますが、これでは賛成している委員の立つ瀬がないじゃありませんか。委員長報告は、その場にいなくても大体話された内容がわかるという、いわゆる「以上、概要を報告します」というところに私は今言ってるんですが、どのような協議をなされたのか、その場に人がいなくても大体その協定、協議された内容がわかる、話の内容がわかるっていうのが、これが「概要を報告します」ですから、やはり公正でなきゃならない、偏った報告は、これは訂正しなきゃならないと私はそう思うんですよ。

概要というのは、これはあらましという意味ですから、再度繰り返しますけども、その場にいなかった人でもその場の状況がわかると、話の内容がわかる、大体協議されてる内容がわかるっていうのが「概要を報告します」ですから、委員長のこの報告は「概要を報告します」という、この締めくくるを否定しとることになる、これを私は認めるわけにはいきません、この委員長報告は。そうでしょう。

やはり、この2月16日の委員会においては、何人もの委員がこの執行部が示した協定書（案）について賛成の意を表明したんですから、粛々と駅の橋上化に向かって進めてほしいと、そういうふうな意思表示をしたんですから、何人もの産業建設常任委員会の委員が、委員長はこれを委員長報告の中に取り上げなきゃならないはずなんです、これは。公正でなきゃならないと思いますよ、委員長報告は。どうなんですか。

○議長（大西洋平） 委員長。

◆産業建設常任委員会委員長（山田勝則） どこが公正でないんですか。委員会の中身について、当然それを報告したことであります。この議会の委員会であった中であったこと、それについて、概略こういう意見がありましたということ報告しておるわけです。

それで、あたかも委員会が協定案に反対したとか、賛成したとかというふうな議論をされてますが、これは反対したわけでもなく、賛成したわけでもなく、決をとってるわけではありません。それについて、新聞等々に出ておまして、私どももびっくりしたんですが、委員会の理解が得られなかったと判断したということは何をもって判断したのか、これは私どもが委員会の中で反対、賛成なかったわけですから、それはいろいろありましたけど、それについての決をとってるわけではなかったわけですから、そういうことに聞くのであれば、そう判断されたという、執行部が判断したわけですから、その判断基準はそちらのほうにお聞きいただきたいと思います。

○議長（大西洋平） 原議員。

◆7番（原彰） 話は、ちょっと今すりかえられたかと、執行部のほうに話を振られましたが、私は一言もそんなこと言っておりません。あくまで委員長報告っていうのは公正でなきゃならんよと、それを言うんです。だから、この執行部の説明に対して賛成であると、

粛々と前向きに、橋上駅舎が完成するような方向に話を進めてくれというふうな意見があったことは、私も知っております。

では、聞きますが、あなたが言われたような、先ほどのいわゆる2点ありますよね。いわゆる透明性を、市が費用を負担する工事をJR西日本が代行発注するのは、工事費の透明性を欠くのではないのかということと、工事施工に伴う損害についても協議するようにとの意見があったと、こういう報告があった。それはあったんでしょうが、これが当委員会を閉めるに当たっての総意だったんですか、これは。そうですか。これで委員長報告だと言われたら、橋上化に向けて賛成してる委員の立場を表明していることにはまるでならないでしょう、これでは。この2点が産建の総意であるというふうな感じを与えてしまいますが、どうなんですか、これは。

○議長（大西洋平） 委員長。

◆産業建設常任委員会委員長（山田勝則） よく読んで聞いていただきたいんですが、こういうふうなことの見解がありましたというふうに報告しとるわけでありまして。

（7番「こういうふうな意見がありましたと報道してる以上は……」の声あり）

○議長（大西洋平） 原議員。

（7番「報道してる以上は……」の声あり）

もう3回ですから終わりです。

（7番「え」の声あり）

3回ですから、もう。

（7番「何なら」の声あり）

ほかにありませんか。

香取議員。

◆16番（香取良勝） 今聞くと、何か委員長が1人で建設委員会を牛耳ってやっとなりにしか思えんの。今2人の議員のことを聞くと、何だ、君は。

これは、市長、金光の前町長の片山氏が平成16年からやろうと、合併でやろうとすることをやる、合併のお金で、特例債でやるということを我々は特別委員会、その当時の委員じゃったんですよ、合併委員です、そのときの金でやるんだということを明記しとったんですよ、これは。今の議員で、おたくが1人で反対しとんじゃねえか、これは。ほかの委員がだれが反対したんなら。きちっとした説明せえ、こりゃあ。わけのわからんことを言われな、あんた。これは、市としてやらにやあいけんことなんだよ。いけんのんじゃたら君んとこで、これはできないんだって流しやあええじゃねえか。何を考えてよんだね。

これを聞くと、へえで君は、最後に、この委員会の終わった後に、職員にどう言うтонですか。脅迫的なことばあ言うтонじゃないですか、これは。よく考えて説明したんだなと、そういうことを言っとんじゃないか、君は。これは脅迫にもとれるんだよ。委員会の終わった後にそういうことを職員に言うтонじゃないんのですか。委員会のとき何で言わね

えんだ、これは。

結局じゃな、反対しとるからこういうことを言うとな。だから、今言うたように、合併のときにこの調印のときに出席せなんだ。今聞きゃあじゃな、ああだこうだ言うてへ理屈言うとなけど、君は鴨方祭りにも建設委員長として出席してないでしょうが。委員長として不適確だよ、君。体育祭も建設委員長皆出ていくんが当たり前じゃろうが。出席してないでしょうが。そう言うて、ああだこうだ言うてへ理屈つけて、へえでこの建設委員の委員は何人おられるんですか。8人でしょうが。名前を言いますよ。山田勝則、藤澤健、中西、これなんと読むん、美治さんかね、大西恒夫、山下、これ公明党です、筒井、井上、坂本、8人おるんですよ、議員が。これが皆反対したんですか。しない言うたんですか。どうなんですか、それを聞かせてくださいよ。

そして、山陽新聞に載っとりますよ。これは全体を18億円、2006年3月9日、3町合併時に新市建設計画に盛り込まれると、山陽新聞に載っ取るんですよ、これ。載っ取るということはやるんだと、君がまだ議員になってないんだよ。そのときにやるって決まっったんだよ。

そして、これは今、橋上化の南側に大きな開発かけとります。それと、一体になっとなる部分なんです、これ。向こうだけやって、こっち側やらんというわけにいかねえんだ、これ。反対じゃ、反対じゃねえって、反対したから市長も、もうこれしょうがねえからって中止したんでしょうが。だれが見てもそれはそうとなです。何で新聞載るんです、そういうことが。もう一回説明しなさい、きちっとした。わけのわからんことを説明をするな。

○議長（大西洋平） 委員長。

◆産業建設常任委員会委員長（山田勝則） 委員会で議論した内容を報告したわけです…

（16番「いや、私の言うたことを言いなさい」の声あり）

私が賛成とか、反対とかということをお願いすることではありません。委員会の中で反対とか賛成とか、そうしたものを決をとったわけでもありません。そこんところをよく申し上げときます。

それから、あなたは今、脅迫的言葉を私が使ったとか使わないとかということがありましたが、委員会の閉会后、どこで私がそういうことをだれに言ったんですか。失礼なことを言わないようにしてください。

○議長（大西洋平） 香取議員。

◆16番（香取良勝） はっきり言いましょうか。理事から聞いとんですよ。外に、廊下に出てから言うとなだよ、君が。そんなうそを私がここで言うと思とんか。人間として失格だよ、君、そんなことを言うんだったら。

そして、この件について、賛成か反対かって言うてないと言うけど、委員長というのはみんなのものをまとめるのが委員長なんよ。自分が言うたのは委員長じゃないんよ。聞く

ところによるとじゃよ、この委員会は皆さんが物を言うた、終わった後に、何か皆さんご
ざいませんか、ほんならわしが言いますというて、君がどっどっどっどっ、そのほうが長
いっていうのやろ。委員長というものはそういうことを言うようになってないんじゃよ。
皆さんが言うたものを、ほんならどうしましょうかと、まとめるのが委員長なんよ。議長
でもそうでしょうが。みんなをまとめてやるんが議長ですよ。私物化しとるんじゃないん
ですか、君は。もう一回答弁ください。

○議長（大西洋平） 山田委員長。

◆産業建設常任委員会委員長（山田勝則） 委員会は適正に運営しとるわけでございます
から、委員長の報告をし、各委員にいろんな意見があるのが当たり前のことです。
その意見を委員長報告として出すということは当然であります。

それから、あなたは今理事から聞いて、廊下で聞いたとか、そのようなことを言います
が、私の名誉にかかわることですので、はっきり申し上げていただきたいと思えます。

○議長（大西洋平） 香取議員。

◆16番（香取良勝） 君はそういうわけのわからんことを言われな。自分が言ったこと
ぐれえ、胸へ手を当ててわかろうが。裁判でも何でもせられえや。君のどこに名誉がある
んだ、こんなことやとって。ほかの人には名誉がありますよ。おかしいな縁つけられな
さんな、あんた。加藤六月の秘書しょうたんでしょうが。

○議長（大西洋平） ちょっと、委員長報告に対する質問ですからそれしてください。

◆16番（香取良勝） だから委員長報告して言よんだからそれに対して言よんでしょ。
今、理事に言うたというて言うから、私はここへ書いてから、日にちまで書いてここへし
とんです。だから、これ言よんです。それに対して言よるから答弁しよん、こっちから。
答弁、向こうがわしに聞くことはないですよ、わしが質問しよんだから。そうでしょうが、
議長。わしが質問しょうたんで、山田に。何でわしが向こうから、わし受けにやいけんの
ん。ちばけたことをぬかすな。こりゃ、三つ子が言よるようなことを。きちっとしたこ
とを答弁せえ、こりゃあ。何がおかしいんなら、こりゃあ。その顔は何なら、おめえ。君
の顔を職員が見たら気分が悪うて言う者もおるんだよ、よう覚えとけえ。

○議長（大西洋平） 言葉遣いを気をつけてください。

◆16番（香取良勝） はい。議長が言よりますけえ、気をつけますけど、きちっとし
た答弁しなさい。

そして、反対した委員がだれですか、その中で。大西恒夫委員でしょうが、この件につ
いて反対したのは。副委員長、おたくも反対したんじゃないですか、同じ会派でしょう、
おたくと井上邦男委員、3人が会派でしょうが。反対してないんなら反対してないんでも
ええです。だから、こういうことが起きるんじゃないんです、同じ会派で3人がおる。そ
れにもとの町長をしょうた大西恒夫委員が反対したからわあわあなつたんじゃないんです
か。はっきりした、こういうことを議会で言うべきもんじゃないですよ。委員長報告とい
うのは、当局がやりようすることについて、昔からあったものはそれに対して粛々と進む、

前へ向かっていくのが議会じゃないんですか。何でもかんでも反対すりゃあええ、共産党でも反対ですよ、こういうことは。桑野議員やこう、絶対こういうことは反対ですよ。きちっとしたことを市民に見てもろうて言ってくださいよ。もう一回答弁ください。

○議長（大西洋平） 山田委員長。

◆産業建設常任委員会委員長（山田勝則） いろいろ賛成、反対というふうなことを言われましたが、るる申し上げておりますように、これは決をとったりませんので、だれが賛成とか反対とかという問題ではありません。

また、これだけの議員の皆さんが質問されるぐらい、市民の関心のある事業であります。その事業について、委員会で執行部のほうから説明があったことに対し、各委員の皆さんがいろんなことを意見を言い、質問するというのが、これは私は議員の本来の使命であり、責務であろうかと思えます。その出てきた意見を委員長報告で言うのが、私の務めであります。

○議長（大西洋平） ほかにありませんか。

ちょっともうここで、ここで休憩いたします。

午前10時21分 休憩

午前10時35分 再開

○議長（大西洋平） それでは、再開いたします。

ほかに質疑はございませんか。

加藤さん。

◆5番（加藤淳二） 5番加藤です。

今回の分は、委員会の審議っていうのは、委員会では、駅の橋上化については付託をされてます。でも、その内容について、委員会においてはいろんな意見があると思えます、これはいいだとか悪いだとか。委員会の起きてる委員長報告については、いろんな意見の中でこうしたらいいじゃないかっていう意見だと思えます。皆さんがこの委員会において、この協定について決を出せっていうんですけども、決を出すっていうことは付託はされてません。委員会で審議をするっていうことは付託されてますけども、この協定の決をとるということは付託はされてません。その中で、いろんな委員が意見を言って、いい悪いっていうことを考えていきます。その中で1つの意見が出たっていうことなんだと思うんです。だから、委員長の言うように、この委員会で決をとらない、この前の委員会では決をとらないということ、当たり前なことだと思います。

そこで問題になるのは、今度は市長に私はちょっと問いたいんですけども、新聞によると、一部の議員から理解を得られなかったという形になってます。それで、この協定をやめた。それが本当、一部の議員のためにこの協定をやめたのか、本当に、それ以外の別な考えがあったのかということを知りたいということと、それと今後、この駅の橋上化について、私たち議会、もちろん委員会を含めて本会議もそうなんですけども、それとあとJRに対してどういう形で進めていくかということをお答えしてもらいたい。委員会の審議は、

これは普通だと思います。それに対して市長のほうが、市の執行部サイドのほうが、一部の議員での理解を得られなかったということでやめたという、新聞のほうに載っています。委員会では決も出してない、決も出せる状態じゃない、それなのに一部の議員だけの意向でやめたっていうことは理解をしにくいもんじゃないかなと思いますんで、それと今後の議会に対する、及びJRに対する予定というものを、市長、どういう考えているということをもう1回最後。

(「一般質問ではないぞ」の声あり)

○議長(大西洋平) 今の質問については、産業建設委員長報告に対する質疑ではございませんので、それについては控えていただきたいと思います。

◆5番(加藤淳二) よろしいですか。産業建設部においては、何も判断してないものを出てるんで、それに対して執行部の予定を聞いてるだけなんで、だから全体の駅の橋上化のことを聞いてるんで、それは市長に答えてもらってもいいんじゃないかなと思いますけども。

○議長(大西洋平) それでは、副市長。

大室副市長より答弁を求めます。

◎副市長(大室照明) 今の御質問の、前段のほうの委員長報告のやり方っていうんですか、これの委員会の運営の仕方については、それは今説明っていうか、御質問されたとおりにというふうに理解をします。で、委員長報告のとおりだと思いますが、後段については、委員長報告の中身というのを逸脱しておるんじゃないかというふうに理解するんですけども、我々は、執行部とすれば、今山田委員長のほうから御報告があった中身について、我々執行部として出席しておる人間が、市長に対していろいろ真摯に、中身については誠実に御報告を申し上げたというところまででございます。後の、今加藤議員さんの御質問ですが、これはまた委員長報告の中身とは別に、委員長の報告によって方向が出たわけですが、委員長が今報告された中身だけのことによりますと、それは委員長の運営の仕方についての御論議をいただいとしたいと思いますので、その後、じゃあ駅をどうするのかと、それから市長のお考えはどうかということにつきましてはまた後日、一般質問等、またその後議案等の質疑があろうかと思いますが、そういったところで御報告というか、考え方を披露させていただければというふうに考えております。

○議長(大西洋平) 大西恒夫議員。

◆12番(大西恒夫) 12番大西恒夫です。自分も委員ですので、質問するのはおかしいんですが、一言、委員会の名誉のためにお話ししておきたいと思います。

例のJR西日本旅客鉄道株式会社との協定を結んだ後、どういう発注の仕方がされるのかといったときに、JRのほうは全部随意契約でやりますと、市民の税金を使うのを随意契約でやるとなると、いわゆる透明性ということに対してどういうふうに確保されるのかということは大変難しいということで、そのことについて私どもは反対というよりも、それに対して徹底的な、明らかにすることを求めたわけです。委員の中もほとんどそうだった

たと思います。そのことに関してはだれひとりとして、透明性のことに関しては問題は私はないと思うわけです。決して、委員の皆さん方が反対しとったんじゃないなかつたということをおし添えておきたいと思ひますし、委員長報告は私はいれで正しいと思ひますし、委員会があそこで、事前審査として議決するということは違法でございますのであれでよかつたと思ひます。最終的には市長がどうされるかということが、一番大きな問題だろつと思ひます。よろしくお願ひします。

以上です。

○議長（大西洋平） ほかに。

藤澤議員。

◆10番（藤澤健） 今さっき、私の名前がでましたので、その中で私が申したことと、事実と違ふことがありましたので、ここで明快にさせていただきます。

私は、この鴨方駅橋上化について、賛成も反対も委員会ではいたしておりません。ただ、要望として、JRと関係がないのであれば、南北広場を地場産業に発注はできないかと、こういう要望は申しました。そして、14億4,000万円JRへ委託するわけですが、その中で地場産業を下請とさせていただきます項目はないか、地場産業の育成あるいは経済の活性化のために、地場産業を使つていただくよう申し入れてくれと、こういうことを委員会でおし上げましたので、賛成も反対もいたしておりません。誤解ないようにお願ひいたします。

○議長（大西洋平） これで質疑を終結します。

（「議長、議長」の声あり）

質疑を終結いたします。

（「議長」の声あり）

永原議員。

（「また終結してまたやってくれるんか」の声あり）

◆18番（永原知康） ここで動議を提出いたします。18番永原知康。

よろしいですか。

○議長（大西洋平） どうぞ。

◆18番（永原知康） 了解。

鴨方駅の橋上化及び駅周辺整備事業に伴う西日本旅客鉄道株式会社との協定締結推進の要望に関する決議を会議規則第14条第1項の規定によりまして、文書をもって提出いたします。本件については、この際日程に追加し、直ちに議題とすることを切に要望いたします。

以上。

○議長（大西洋平） それでは、ここで休憩いたします。

午後10時45分 休憩

午後11時09分 再開

○議長（大西洋平） それでは、再開いたします。

ただいま18番永原知康議員から、鴨方駅の橋上化及び駅周辺整備事業に伴う西日本旅客鉄道株式会社との協定締結推進の要望に関する決議についての動議が提出され、所定の賛成者がありますので、動議は成立いたしました。

お諮りいたします。

この際、発議第1号を日程に追加し、追加日程1として、直ちに議題とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大西洋平） 御異議なしと認めます。よって、発議第1号を日程に追加し、追加日程1として直ちに議題とすることに決定をいたしました。

~~~~~

○議長（大西洋平） 追加日程1、発議第1号鴨方駅の橋上化及び駅周辺整備事業に伴う西日本旅客鉄道株式会社との協定締結推進の要望に関する決議についてを議題といたします。

議案の朗読をさせます。

◎議会事務局長（高橋豊） 〔発議第1号朗読〕

○議長（大西洋平） それでは、ここで提出者より提案理由の説明を求めます。

18番永原知康議員。

◆18番（永原知康） それでは、趣旨説明を申し上げます。

鴨方駅の橋上化及び駅周辺整備事業に伴う西日本旅客鉄道株式会社との協定締結推進の要望に関する決議について趣旨説明をここで申し上げたいと思います。

鴨方駅の橋上化及び駅周辺整備事業は、新市建設計画において、その主要施策として推進することが掲げられております。そして、これまで市議会においても、事業の推進を図るよう重ねて重ねて審議をしてきたところであります。しかしながら、このたび本事業に伴う西日本旅客鉄道株式会社との仮協定が延期され、議会への関連議案の提出が見送られ、大変憂慮しているところであります。

駅の橋上化事業は、駅を利用する多くの市民にとって利便性がさらにさらに増大をし、住民福祉の向上と浅口市の発展につながることでありと考えております。よって、速やかに鴨方駅の橋上化にかかわる西日本旅客鉄道株式会社との協定を調印するため、適切な措置を講ずるよう切に要望するところであります。本決議に対しまして、議員皆様の力強い御賛同をいただきますように、よろしく願いをいたします。

以上であります。

○議長（大西洋平） これより質疑に入ります。

質疑はありませんか。

桑野議員。

◆3番（桑野和夫） 3番桑野でございます。

この問題での事の発端は、産業建設常任委員会の後に、市長の判断によって協定を中止をしたことであります。きょうの市長の政務報告でも、今、一番の大きな焦点であるこの問題について、市長の見解はありませんでした。よって、今の時点でこの問題を議会の判断にゆだねるということは、非常に筋が違うのではないかというふうに思います。協定は、市長の責任でどうするのかを判断をされるのが、私は妥当だというふうに考えます。その点、提出者としての判断はどうか、お聞きをします。

○議長（大西洋平） どうぞ。

永原議員。

◆18番（永原知康） 市長の判断ということですが、産業建設委員会の委員長報告を見ておきますと、まさに透明性を欠くとか、工事施工に伴う損害等々書かれておまして、当時この産業建設の常任委員会の中に、これを率直に理解しますと、原議員も申し上げたようではありますが、まさに反対の方が非常に多いんじゃないかというふうに誤解をいたします。ちょうど、私も傍聴しておりましたが、賛成の方も大変大勢おったと思いますので、やはり、正常にこの委員長報告をしていただくには賛成の方、反対の方の意見も平等に、これに書かれていいのではないかと考えております。

以上であります。

○議長（大西洋平） 桑野議員。

◆3番（**桑野和夫**） 私、委員長報告のことを問題にしとんじゃなくって、この問題に対して市長の見解はどうかということ、提出者として聞いたほうがいいのではないかというふうな質問をしますので、その点を明確に答弁をお願いします。

○議長（大西洋平） 永原議員。

◆18番（永原知康） これは、合併する前から、鴨方町時代から長年の懸案であり、今日まで大勢の方がこれに携わり、田主市長もこれは非常に前向きであると私は考えております。

以上であります。

○議長（大西洋平） 桑野議員。

◆3番（**桑野和夫**） 産業建設委員会が協定をするかしないか決断をしたわけではありません。あくまで産業建設委員会の後の後日、市長の判断によって協定が中止されたというふうに私は、新聞報道では見ております。その点について、やはり市長の見解がやはりないと、なかなか議会としては判断できないというふうに考えますので、よろしくお願ひします。

○議長（大西洋平） 永原議員。

◆18番（永原知康） 産業建設委員会の中で、非常にこれは透明性を欠くとか、一部の議員の方の御理解が得られなかったということで、やはり市長はこれを判断したと思うんですけど、内心は前向きな姿勢であると思っております。

以上。

○議長（大西洋平） ほかにございませんか。

加藤議員。

◆5番（加藤淳二） 5番加藤です。

今、桑野議員が言ったように、基本的には産建では何も判断してませんし、産建ではむしろしてもいいということ聞いてます、さっきの委員長報告。それをやめたのは市長がやめたんです。なぜ、やめたことに対して議会が、議会がやめろって言うのであれば、それは有志の議員が要望書を出してもいいですけども、市長が、執行部サイドがやめたことに対して、何で私たちが今ここで要望書を出さなきゃあかんのか。だから、市長が今後どうするか、さっきも言いました、本当にやめた理由、そして今後どうするかということばきちんとしてもらわないと、私はこのことに対して判断できません。

ですから、そのことで、永原議員のほうから、市長が答えられないのであるんならば、提出者のほうから今後の予定、やめた理由、それをきちんと説明してもらわないと、それについてどうこうっていうことはできませんので。

○議長（大西洋平） それは意見ですか。

◆5番（加藤淳二） 意見として、済いません。ほんなら永原議員のほうで、市長のほうにそういうやめた理由、それと今後どうするかということばきちんと永原議員のほうに今後どうするかということと、市長の本当のやめた理由、それをきちんと説明してもらわないと、私、駅の橋上化について何も反対するもんじゃありません。ただ、やめた理由もわからなければ今後どうするかもわからん、ただ要望書を出す、要望書出すのに関しては、何も議会がやめたちゅう話は何でもありませんから。議会はもともとやってくれっていう話ですから。それが、執行部はいつの間にか、一部の議員の理解が得られなかったってことでやめただけのことですから。だから、そのことをきちんと説明してもらわないと、執行部サイドのほうからきちんと説明してもらわないと、この要望書については私は判断をしかねると。駅の橋上化については反対してるわけじゃありませんから、要望書の、この本当のそういう今後の進みぐあい、それと判断、それがわからんのに、出しただけで、出したけども、やっぱり市長はやめたとなれば、結局は一緒ですから、やっぱり市長のそういうことがないと、これに対して、議決をとるときに賛成、反対っていうことについての判断はできませんっていうことなんです。それをきちんと永原議員のほうから市長に聞いていただいて、市長が答えられないのであれば、永原議員から答えてもらいたい。

○議長（大西洋平） 永原議員。

◆18番（永原知康） 仮協定の足踏みをしたのは、一部の議員が、透明性を欠くとかいろんな御意見があったから足踏みをしたのであって、そこで一呼吸置いたわけでありまして。ですけど、基本的には市長は非常に前向きな推進派だと考えております。

以上。

○議長（大西洋平） ほかにございませんか。

山田議員。

◆1番(山田勝則) 市長の御判断が、一部の議員がというふうなことで、市長の心のうちが提出者にはわかるようですから、これは別としてお話を聞こうと思いますが、要望書、委員会においても、仮協定はどうぞしてくださいというふうに、これは御随意にということで申し上げると思っています。これは出席された方、皆さんお聞きしとんじゃないかと思っております。

これで、またここに21年度の予算案が出てきております。これには、そういったものが入っております。そうしますと、これから予算案の審議に入ろうかというのに、この問題だけにつき、予算案のこの部分だけにつき事前協議みたいな形、事前の決というふうなことになるような形のこの要望書が出てくるというのはどうかと思うんですが、予算案との絡みをどのように考えますか。

○議長(大西洋平) 永原議員。

◆18番(永原知康) 予算案は今回出ているということではありますが、仮協定を御随意にと言ったということではありますが、仮協定を御随意に、その中に非常な意味が含まれておると思うんですが、そういう御随意にということを非常に、執行部の方がそういう空気を判断したからこういう結果になったと思っております。

○議長(大西洋平) ほかにございませんか。

どうぞ。

◆1番(山田勝則) 質問に答えていただきたいと思えます。御随意にというのは、どちらでもということですから、私どもがええとも悪いとも申し上げることでないということですから、執行部の判断に任せましたということなんです。

その仮協定が行われていた、いなかったということは別にして、その判断とは別にして、予算案にはちゃんと上がってきておるわけですから、この予算案をこれから私どもはこの議会で審議し、委員会にも当然付託されてくるわけでしょうから、その予算案を審議するわけですが、予算案の中から、この駅の部分といいますか、橋上化の部分だけを抜いて、今ここで議決をとろうかという意味、事前の審査をしようという意味をお聞かせください。予算案との整合性をどうするのかということをお聞きしとります。

○議長(大西洋平) 永原議員。

◆18番(永原知康) 私がここへ書いておりますのは、適切な措置を講ずるように要望いたしますということをここに書いてるわけであって、仮協定に進むように、本来産建の委員会でそういう方向の空気がなかったからこういう結果になったんで、足踏みしたわけですから、ですから早く前向きにしてくださいということを書いとるんです。ですから、今回の予算にも上がるとんですから。

○議長(大西洋平) 山田議員。

◆1番(山田勝則) 予算に上がるとるわけですから、粛々と議論をすればいいと。

それから、産建でそういう雰囲気になかったとかなんとかというんでありますけど、議決、会議録等々で判断していただくことでありまして、雰囲気がどうかということをや

りますと、議会の形骸化、死滅ということを招きますので、予算案が上がるとるんですから、予算案を審議すればいいことですから、予算案との絡みはどのような関係で出てきますかということ。

○議長（大西洋平） どうぞ。

永原議員。

◆18番（永原知康） 私は、予算案と言うんじゃなくして、適切な措置を講ずるよう要望しとるわけでありますので。予算のことは、私一切ここには書いとらんですから。

○議長（大西洋平） ほかにございませんか。

井上議員。

◆19番（井上邦男） ちょっと皆さん、ようこの話ばかりしょうりますけれども、我々建設委員会の中で、これが反対じゃとかと言った人は一人もおらないし、それから賛成と言った人は1人か2人おられたかもわかりませんが、ただ我々が言っているのは、14億4,000万円の税金を使うのだから、透明性をしてくださいと、透明性が何で悪いんですか。何回も今言われた透明性がどうのこうのと、当然でしょうが、14億4,000万円の金を使うのにかちっとしたことをしてくださいと、特命の随意契約じゃとか、そんなとぼけたことを言うたから、僕らはおかしいから透明をしてくださいと言うたわけであって、反対したことは一つもありません。

ですから、また理事がおられますけど、「理事さん、賛否を問うんですか」と言ったら、いや、よろしい、よろしいと言いましたよ。みんな聞いとります。「賛否とりましょうか」と委員長、言いましたよ。勘違いされたんじゃないですか。そういう雰囲気の中で、これは市長が判断されて仮調印をしなかつただけですから、そっから先は我々の責任じゃないですよ。これ、市長が判断してもらわんとどうにもなりませんよ。私はそう思います。

○議長（大西洋平） これ、意見ですか。

（19番「はい、よろしいよ」の声あり）

ほかにありませんか。

（「意見はもう聞かんようにしてください」の声あり）

〔「なし」の声あり〕

○議長（大西洋平） これで質疑を終わります。

発議第1号については、委員会付託を省略することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大西洋平） 御異議なしと認めます。

次に、討論を行います。

討論の希望はありませんか。

畑中議員。

討論は前、前へ出て。

前へどうぞ。

◆15番（畑中知時） それでは、討論をさせていただきます。

私も実は、この件につきましてはせんだっての新聞紙上で内容を初めて聞かせていただきました。先ほど来から御意見が出ておりますけれども、鴨方駅の橋上化というのは、長年の懸案であるということは重々承知いたしております。田主市長さんと県知事のところへ陳情にも行ったという経緯もありますし、そういうことについては、経緯は若干知っておるわけでありまして、今ここに至って、こういう状態でいろいろな意見が出ておると、私もこの席におらせていただく以上は、この案件にどう対応するかということで、今聞かせておりますと、非常に苦心しておるというのが現状であります。

したがって、この前の新聞で、一部反対があったから仮契約をキャンセルしたというのが載っておりました。いよいよ調印の前の日にキャンセルというふうなことであるだけに、異常な事態だなということは感じました。そして、またきょう、この場に至りましてこういう議案が出てきたと、発議が出てきたということについても、若干戸惑っておる次第であります。

しかしながら、鴨方の橋上駅というのは、そういう歴史といえますか、経緯もあるわけですから、これを進めるということについては、先ほど来から聞かせていただいておりますと、反対という人がそう多く、あるいは強力にというようなことは感じ得ません。ただ、しかしながら、1日前にキャンセルするということは異常な事態でありますから、そのあたりの内容をこの前の臨時議会のとき、あるいは本日は、そういうことがどういう経過で起きたのかということを知りたかった、あるいはそういう発表があるのではないかと期待を持ってこの席に出席させていただきましたけれども、いまだかつてないということについては、非常に私としても判断に苦しむと。

先ほど来から、委員長報告あるいはその質疑を聞いておりますと、ただ1点、これを進める上で、当局の説明が若干おくれておると、あるいはさらにはその内容が皆さんに説明が不十分だという部分が大きな障害になっておるのではなかろうかなと、このように思うわけであります。

したがって、発議ですから、これに例えば賛成すると、次の予算の問題あるいは本契約のときの問題を考えながら、ここで賛成するか反対するか、非常に苦しんでおられる方ってのはかなり多いのではなかろうかと思えます。今の、国におけるところの給付金の問題じゃありませんけど、最初賛成して、後が反対だというようなことになったら困るというような、そういう部分もあろうかと思えますので、私は市長さんにキャンセルした内容、あるいは今後皆さんが心配しておる、先々で透明性の問題等々が起きて、それによって先で大きな障害になることのないような、そういう適切な措置をとっていただきたい。そのために、特に市長さんのここでの経過あるいはお気持ちを聞かせていただくと、こういう中で判断をさせていただきたいと、このように思うわけであります。

以上を私の要望として述べておきます。

○議長（大西洋平） ほかにございませんか。

香取議員。

◆16番（香取良勝） 先ほど、討論というのは賛成か反対かというのが討論だよ。今言うて、市長に物を聞くというんは何が討論な。あんた何年町の職員しょうて、町長しょうたんで。そういうこともわからんのか、君。

討論というのは賛成か反対か、ここで聞くだけでしょうが。私は賛成ですよ。それを言やあええんですよ。わけのわからんこと、市長に物を言えとか。それは前、話があったでしょうが。何をあんた考えとんで。討論にするって前へ来なさい言やあ、そこで物を言うたり。討論はここで言うようになってんだ。そういうことがわからんのですか。

といたしますのも、私はこれ、何で賛成かと言いますと、今までこれはあっこの金光町、鴨方町、合併するとき特別交付金、合併特例をもって金光も橋上化されとります。鴨方は浅口市の顔です。そして、その南側に大きな、今何億円と浅口市がお金を出して、ほんなら一緒にやりましょうと、できとります。それにつながる道をつくるんですよ。こっちはできとんだ、これはしないんだ、そんなことがあっていいもんかということは、だれもが知つとるわけじゃないですか。それをじゃな、ああだこうだと、委員会のほうでわしらは知らんのか、ここへこれ出るまでは何言ようたんですか、委員会で。ああだこうだ言うてからへ理屈つけて、前へ行かんだ、反対ではねえんだと、井上議員はこう言われとるけど、反対してねえんならその場で言いのがれえや、自分の委員会でしょうが。透明性がねえはそのとき言われえや。きちっとしたことを言われえや、君ら。きのうきょう出た議員じゃないんでしょうが。わけのわからんことを言われな、ここで。

結局、反対か賛成かというのはここで言うべきであって、もうそこまで来とんですよ。どうしますかと。ここで市長に物を聞くとか、あれへ聞くとか、関係ないんだ。それは一般質問でしてください。

私は、皆さんにお願いしたいのは、これは浅口市の顔でございます。そして、14億円、14億円言うりますけども、国の起債は約4億円でできるんですよ。国が全部出してくれるんですよ。それで、皆さんええようにやっていきましょうよ言うて市長が頑張つてやっとなんじゃから、それで委員会でああだこうだ言うから市長も嫌になって、ほんなら1回中止しとこうかと言うたんですよ。それだけのことです。市長はしとうていけんのんです。合併するからしたかったんだから。我々はしたかったんだから。そうですよ。

ぜひ、皆さん、反対しとるもんは反対しても結構です、皆さん見ゅうんじゃから。だから、議長が賛成の方は起立言いますから、起立してください。よろしくお願ひします。

終わります。

○議長（大西洋平） ほかに討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大西洋平） これで討論を終わります。

採決に入ります。

発議第1号鴨方駅の橋上化及び駅周辺整備事業に伴う西日本旅客鉄道株式会社との協定

締結推進の要望に関する決議については原案のとおり可決することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（大西洋平） お座りください。

（「ゆっくりせえ」の声あり）

起立多数と認めます。よって、発議第1号については原案のとおり可決されました。

なお、市長におかれましては、本決議を踏まえまして、早急に鴨方駅の橋上化及び駅周辺整備事業に伴う西日本旅客鉄道株式会社との工事協定締結の推進をお願いしておきたいと思えます。

ここで休憩いたします。

平成21年第2回 3月定例会 — 03月10日—03号

○議長（大西洋平） 再開します。

次に、3番**桑野和夫**議員、どうぞ。

どうぞ。

◆3番（**桑野和夫**） それでは、通告に従いまして質問をさせていただきます。

まず、雇用と中小企業の経営を守るための浅口市の対応について質問をします。

アメリカ発の金融危機に端を発した経済危機は、日本に未曾有の影響を及ぼし、自動車産業や電気産業などの輸出大企業を初めとした企業による派遣労働者や期間工労働者の非正規労働者の大量解雇が強行され、その影響は年度末を控えて正規労働者にも及ぼうとしています。加えて、この春に就職を予定していた学生や高校生の内定取り消しも重大な問題になってきています。県内でも三菱自動車水島製作所などが大量解雇を行っており、その影響は浅口市内の下請企業にも及んでいます。今、景気悪化のもとで大企業が競い合っ  
て進めている大量の派遣切り、非正規切りは、人間を使い捨てにする派遣労働の非道さ、残酷さを最悪の形で示しており、小泉改革以来進めてきた構造改革路線の破綻を示しています。同時に、内部留保を少し取り崩せば労働者の雇用を守れることから、大企業が社会的責任を果たすよう求める声も大きくなってきています。今、多くの労働者が突然の首切りで職を失い、同時に住居も失うホームレスになり、寒空の路頭で文字どおり命の危険にさらされていることがあります。政治の責任で早急な対応が求められています。

また、景気の悪化のもと、中小企業の経営も大変になっており、倒産を余儀なくされている中小企業もふえており、こちらのほうも政治の責任での対応が求められています。

こうしたことで、日本共産党の浅口市議団は1月16日に、田主市長に雇用と中小企業を守るための緊急の申し入れを行いました。項目は4点でありました。

まず、解雇、雇いどめ、派遣切り、内定取り消しなどについてハローワークと連携をとって実態の把握に努め、違法な解雇、内定取り消し、派遣切りについては関係機関と連携をとり是正をさせること。2つ目、解雇、雇いどめを受けた派遣労働者、期間工労働者などの相談窓口を設け、生活資金、住宅、就職あっせんなどについて相談に応じること。また、生活困窮者には生活保護を適切、早急に適用すること。また、現行制度では救済されない失業者を対象にした市独自の給付金、貸付制度を設けること。3番目、中小企業向け緊急融資制度を設け充実させること。中小企業への融資、経営相談に応じる窓口の体制をつくり強化すること。4つ目、市の臨時職員の採用、市独自の失業対策事業、地場や地場中小企業向け公共工事の発注の前倒しなどによる雇用拡大と仕事づくりに取り組むこと。以上4点を申し入れをしました。申し入れをして二月が経過をしましたが、申し入れた項目の中で何がどうされたのかお聞きをします。また、浅口市内で派遣切りや期間工切りに遭った労働者は何人いるのかお聞きをします。

次に、金光町の水道水、いわゆる分水の問題について質問をします。

現在、鴨方町と寄島町は西南水道企業団から、金光町は倉敷市から受水をしています。

しかし、一昨年(2010年)の7月に国が倉敷市に金光町への分水は水道法上好ましくないとの指摘があったことから、水の購入先を西南水道企業団に統一をするとの案も浮上し、現在検討をされているところだと思えます。

そこで副市長にお聞きしますが、浅口市と倉敷市、また浅口市と西南水道企業団との協議経過について簡単に時系列的に説明をお願いします。また、鴨方から金光に配水をするための工事費用は幾らかかるのか、お聞きをします。

次に、金光町の大谷地区であります、門前町としてのまちづくりについて質問をします。

私はこの門前町としてのまちづくりが今後金光町、そして浅口市の発展につながるものと確信をしていますが、そうした立場で質問をします。

浅口市の都市計画マスタープランの素案を見ますと、大谷地区のまちづくりについて基本方針で、大谷地区門前町は多くの来訪者があり、特性を生かしたにぎわいを発揮できるような土地利用を図りますと掲げています。

そこでお聞きをしますが、平成17年に大谷地区元気いっぱいまちづくり協議会が発足をし、大谷のまちづくりを推進をされていますが、市とその協議会との関係はどういう関係なのか。また、今までその会がどのような活動をされてきたのか、お聞きをします。

最後に、JR鴨方駅橋上化と周辺整備についてであります、市長にお聞きをします。

市長は施政方針でこの整備について一言も触れることがありませんでした。このことについては私は奇異に感じたわけであり、昨日の一般質問で、議員発議であるJRとの協定締結推進の決議について話がありました。私は、市長がJRとの協定をなぜか中止をし、その詳しい説明があると注目していた議会初日の施政方針で、市長から何らメッセージがない中で議員に判断を求められても、よいも悪いも判断する材料がないということでやむなく退席をしました。なぜ、絶好のアピールの場である施政方針でこの駅の問題について一言も言及がなかったのか、お聞きをします。

また、昨日も議論がありましたが、自由通路等JR西日本への代行発注部分4億8,000万円ありますが、JRは随意契約で業者を決めるというふうに言ってるそうでもあります。私は安全を無視しろとは決して言いません。当然、実績もあり、経験もあり、安全に工事ができるJRと関係がある業者がするのは当然と思えます。しかしながら、代行発注という丸投げをしないで、ある程度市も関与ができ、透明性が担保ができるよう、ぜひJRと協議できないか、こういうことを思うわけであり、これについてどうお考えか市長にお聞きをします。

以上、よろしくをお願いします。

○議長(大西洋平) それでは、答弁を求めます。

最初に、雇用と中小企業の経営を守るための対応についてを産業建設部長より答弁を求めます。

どうぞ。

◎産業建設部長（流尾広秋） それでは、私のほうから中小企業の経営を守る対策についてお答えをさせていただきます。

経済不況等により日本の産業構造を支えてきた中小企業を取り巻く環境は大変厳しく、経営そのものの根底を揺るがすといった事態が生じております。当市の中小企業支援策といたしましては、まず市小規模企業対策資金保証融資制度では、県保証協会が債務保証を行うことにより、金融機関から融資を円滑化することで、中小企業の方々が融資を受けやすくするための支援を行っております。また、現在、市中小企業設備資金利子補給要綱の利子補給率の緩和を検討しており、今後設備の近代化、高度化を検討している企業等に対して考えてまいりたいと思っております。

また、国が行っている中小企業支援のためのセーフティーネット対策については、保証枠の拡大や規制緩和などにより、現在認定を受けているための企業からの市への申請が100件を超えるなど多数提出されておりますので、少しでも早く認定ができるよう迅速な対応に努めているところでございます。

また、市内の企業の派遣社員の状況でございますが、これは正式な調査ではございませんが、2月末で約150名を超える削減が見受けられます。今後とも中小企業を取り巻く現状を迅速に察知しながら、一層の情報収集に努めてまいりたいと考えております。よろしく願いいたします。

○議長（大西洋平） 次に、金光地域への分水についてを大室副市長より答弁を求めます。どうぞ。

◎副市長（大室照明） 金光地区の分水についてのお答えを申し上げたいと思います。

この問題につきましては、過去、産業建設常任委員長の報告もあったように思いますが、現在倉敷市から上水道の分水を受けている金光地区も西南水道企業団から受水ができるかどうかということについて、私たちは平成19年8月におきまして西南水道企業団と笠岡市に打診をしてみました。これは5,000トンの配分について可能かどうかということについての打診を行ったわけでございます。その後、具体的な返事がなかったわけですが、去る平成20年12月18日に笠岡市から我々の要望に対して返事があったわけですが、その内容につきましてはいわゆる白紙の状態から事務レベルで協議をしたいというような御回答でございました。

それから、この件に関しましては、倉敷市におきましては先ほど議員さんがおっしゃられましたように、平成19年7月12日、13日の2日間にわたって、いわゆる厚労省のほうから倉敷市のほうへ立入検査を行われたということでございまして、8月7日付で我々のところへ、そういった受水についての考え方についてどうだろうかということの打診がございました。そういったことで、倉敷市は我々の市の考え方によってそれに対応するんだというような現在の考え方でございます。

9月の議会におきまして、いわゆる事業費につきましての財源につきましては、合併特別債を使用するんだということを御答弁させていただいたと思っておりますが、しかしながらそ

ういったその時期からいいますと、また平成19年8月の時点からいいますと大きな社会的、経済的な状況が変化しております。我々浅口市の財政運用におきましても、いわゆる慎重にしなければならない状況に置かれておるといふような考え方もございます。多額な自主財源を使用する事業でございます。今後は関係の市とも協議をしながら、議会ともいろいろ御相談を申し上げながら慎重に進めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（大西洋平） 次に、門前町のまちづくりについて金光総合支所長より答弁を求めます。

どうぞ。

◎金光総合支所長（藤澤快真） それでは、門前町のまちづくりについてお答えをさせていただきます。

金光町大谷地区は、金光教の門前町として栄えてまいりましたが、近年の交通の利便性向上に伴う参拝者や観光客などの滞在時間の減少、並びに地域住民や来訪者の高齢化などによる町の衰退傾向が指摘されております。まちづくりや活性化につきましては、地域の方が地域をどのような町にすべきなのか十分議論し、住民主導によるまちづくりが必要であると考えております。このような考えの中で地域の潜在的なまちづくりの可能性を探り、またそのための地域住民のまちづくりへの意識向上を図ることを目指して、地元住民による大谷地区元気いっばいまちづくり協議会が平成17年に設立をされました。以来、大谷地区の商店へののれんかけや大谷の町並みを題材にした絵はがきの作成、大谷地区内へのプランターの鉢植えの設置、下淵駐車場横のトンネルペイントの事業を行ってまいりました。また、会員は主に大谷地区内の住民、各種団体の代表者、金光教関係者等で組織され、会員数も徐々にではございますが増加をいたしております。市といたしましては、協議会との協働によるまちづくりの中で、住民と一体となって大谷の町ににぎわいが戻るよう努力してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（大西洋平） はい、どうぞ。

◎副市長（大室照明） 済いません、ちょっと御質問にお答えしてない部分がございます。

経費につきましてでございますが、現在本当に大まかな概算の金額は一応水利権も入れた中で6億円程度というふうに考えております。

以上です。

○議長（大西洋平） それでは続きまして、JR鴨方駅橋上化・周辺整備についてを市長より答弁を求めます。

◎市長（田主智彦） JRのことにつきましては、最初はおあいさつの中に入れておりましたが、いろいろ感情的なことになってはいけないと思ひまして、私が一般質問の中でお話ししようと思って除外したわけでありまして、他意はありません。

○議長（大西洋平） 再質問ありますか。

どうぞ。

◆3番（桑野和夫） まず、雇用の問題であります、申し入れに対しての市が行った取り組みについての報告がありませんでしたが、例えば相談窓口とかという問題も含めて基本的には何らされてないんだというふうに感じています。

余り深刻に受けとめてられてないんかとも思いますが、1つ紹介をしたいと思います。

金光町に住民登録があつて派遣切りに遭った29歳の青年のことです。1月29日に岡山県労働組合会議から派遣切りに遭った労働者の対応をしてほしいと連絡がありました。その労働者のプリペイド式の携帯電話に連絡し、会って話を聞くと、昨年12月12日に首切りに遭って、1カ月半市内の駅西公園と天草公園で生活をしていました。昼間は図書館で過ごしたと。お金は一銭もなくなり、食べ物はスーパーの試食コーナーで食べたり、あるいは2週間ほとんど何も食べないときもあった。ぜんそくもあつて、この間自転車で玉島のハローワークに行ったが、中卒で免許もなく仕事が見つからなかった。きょうの山陽新聞——というのは1月29日です——これに労働組合が岡山にも派遣村をとの記事をたまたま図書館で見て、これでだめなら死ぬしかないと思って電話をした。今からでも相談に乗りますということで望みが出たという話をしてくれました。

その後、その人と一緒に浅口市役所に相談に行きましたが、住居の問題あるいは生活保護の問題等で当時浅口市は緊急に対応できる環境ではありませんでした。仕方がなく倉敷のハローワークに住居の相談をして、その後ぜんそくでもあるということから、倉敷市内のある病院に入院をさせてもらいました。翌日、すぐに病院を現在地として倉敷市に生活保護を申請し、市は窮迫してるということで1日で保護の決定をしてくれました。その後、県営住宅への入居が決まったので、岡山市の福祉事務所に生活保護の申請に行き、後日決定、そして現在彼はハローワークに行き仕事を探しているという状態です。彼はしみじみ話していましたが、浅口市でももっと親身に相談に乗ってほしかったということも語っています。

そこで副市長にお聞きしますが、人間を人間として大事にする観点で、こうした事態に対応できるようにするため、今後市としてどうされるのか、お聞きをします。

それから、分水の問題ですが、工事費が6億円ということになります。相当に市民の負担がふえることにはなりますが、普通に考えれば工事費は多少浅口市が負担金を出してでも西南水道企業団に求めるのが普通ではないでしょうか。例えば各家庭が電気を引く場合、本線の工事をするのは当然供給元の会社がするということですから、当然この場合でも水を供給をする企業団が本管を引く、これが当然だと思います。また、法律を破ってはなりません、引き続き倉敷市からの受水を続けるよい方法はないかどうか含めて、市民の声を聞きながら浅口市が主導権を持って交渉をしていく必要があると思いますが、今後どういう展望があるのか副市長にお聞きをします。

それから次に、大谷のまちづくりですが、大事なことは協議会や金光教本部、そ

して浅口市がお互いに協力し合って将来を見据えた本格的なまちづくりをすることが大事だと思います。ここに議長のお許しをいただいて写真を紹介しますが、これは昭和58年の写真であります。これが里見川を向かって写した写真であります。それから、こっちのほうは金光教の祭場の階段のほうへ向かった写真であります。非常に人がたくさんにぎわっています。私の記憶では、もう子供のころ身動きができないぐらい人が多かったというふうなことを覚えていますけども、今金光教の祭典には秋、春含めて約4万人訪れています。それから、初もうでは3カ日を中心に10万人が来られています。これだけの人でありますから、当然少しでも長い間、金光町の大谷の商店街に足を運んでもらえれば相当な経済効果があると思います。

そこで、まちづくりの提案であります。1つは本部の東側に木綿崎山という小高い山がありますが、その一角に植木協同組合とも協力し合って、庭園をつくって見てもらう。また、公園も近くにつくって、桜やもみじも植えて憩いの場をつくる。それから、商店街のメイン道路は大正ロマン風に、例えばガス灯をつけたり、れんが道路にしたりしてはどうかというふうに思います。また、大谷地区には歴史的な建造物がありますから、持ち主の理解をいただき公開する。そして、一定の場所を確保して金光町の果物あるいは寄島の魚、鴨方町のめんなどを祭典中販売してはどうかというふうに思いますが、見解を求めます。また現在、これ以外何か計画がありましたらお聞かせ願いたいと思います。

JRの鴨方駅の問題であります。市長が施政方針で自分の思いを語っていただければ、そう決議を出す必要もないし、混乱もなかったと思います。そういう点で私の思いを伝えておきますので、これは答弁は要りません。

以上、よろしくをお願いします。

○議長（大西洋平） それでは、再質問に対する答弁を求めます。

最初に、雇用と中小企業の経営を守るための対応について、あわせて金光地区への分水についてを大室副市長より答弁求めます。

どうぞ。

◎副市長（大室照明） それじゃあ、またちょっと順番が違いますけども、分水についてまずもってお答えを申し上げたいと思います。

先ほどお答えを申し上げましたように、平成19年8月に我々が投げかけた分水の、笠岡の企業団のほうからの配水についての可能性があるかどうかということについての文書を差し上げたわけですが、その答えに対して20年12月18日に対して白紙の状態です務的な協議を始めようということですので、そういった中身についての詳しい協議が一切されておりません。

これから協議を徐々に進めていくわけですが、今の御提案に合った内容につきましても企業団が持ってもらえる部分があるのかどうか、こういった部分についても協議の中で話していきたいというふうに考えております。

それから、倉敷市からの継続の問題ですが、この問題につきましても、こういった切り

かえをした場合にどれだけのメリット、デメリットが生じてくるのかと、きょう現在の起債の状況やいろいろな状況がございますが、そういった状況の中でそういう中身を精査をさせていただきまして、議会とも協議をしながら、この問題には取り組んでまいりたいというふうに考えております。

それから、中小企業の問題ですが、今考えられております我々の優遇策等につきましては、今産業建設部長がお答え申し上げた中身でございます。今、議員さんの具体的な例も含めてお話があったわけですが、相談窓口も含めて具体的に何か我々が進めていかなければならないということがあれば、今後必要に応じて進めてというか、設置していくということを考えていきたいとは思いますが、この点については我々部内で関係課ともよく協議しながらやってまいりたいというふうに考えております。

○議長（大西洋平） 次に、門前町のまちづくりについて……

（生宗副市長「ちょっと」の声あり）

再度ありますか。

（生宗副市長「今の関連で」の声あり）

関連で生宗副市長より答弁求めます。

◎副市長（生宗重信） 済いません。

具体的な質問が1件あったわけですが、人を人として大事にするために市としてどのようなことをするのかというような質問だったと思います。それから、雇用に関しましてはという質問もあったと思います。

雇用に対しましては、浅口市の場合、今具体的に動いておりますのは緊急雇用対策事業での対応という形で動いております。

それから、市の対応ということでございますが、困っている方々がいらっしゃれば当然御相談に乗らせていただき、そして浅口市として何ができるか各課で協議し、可能な範囲で迅速に対応していく必要があるというふうに私も考えております。よろしくお願ひします。

○議長（大西洋平） それでは、次に門前町のまちづくりについて金光総合支所長より再度答弁を求めます。

どうぞ。

◎金光総合支所長（藤澤快真） それでは、お答えをさせていただきます。

まちづくり協議会では、平成21年度事業で門前町のアーケードでの七夕祭りを7月20日から3週間程度行う予定をいたしております。また、花いっぱい事業を継続事業として実施する予定であります。このような活動を通じて住民の方々の意識が少しでも変化し、まちづくりへの機運が醸成されていくのではないかと考えております。まちづくりで重要なことは、地域の方々が大谷の町をどのような町にしていきたいのか、まちづくりの将来的な構想を描いてその中で住民の方ができること、また行政ができることを考え、検討し、進めていくことが大切であろうかと考えております。

先ほど議員さんから御提案がございましたことにつきましても、まちづくりの一つの手  
法だと思っております。今後検討してまいりたいと思いますので、よろしく願いをいた  
します。

以上でございます。

○議長（大西洋平） ありますか、再々質問。

（3番「はい」の声あり）

どうぞ。

◆3番（桑野和夫） 雇用の問題であります。この間東京での派遣村などが社会的に注  
目をされましたが、市内でも相当の数、派遣切りに遭った労働者がおるとい  
うことであります。しかしながら、相談をしたくてもどこに相談をしていいのかわ  
からないというふうな状況もあります。もちろん、都会に比べたら少ないかもし  
れませんが、派遣切りをされると一気にホームレスに転落する。そして、公的  
なセーフティーネットは何もきいてないという場合があります。これが現実であ  
ります。

そこで市長にお聞きをしますが、最低でも首切りに対応できる相談窓口を設  
置をして、生活資金、住居、生活保護などの相談に積極的に乗るお気持ちがあ  
るかどうにお聞きをします。また、一層中小企業の経営を守るための制度の充  
実や経営相談に乗るお気持ちがあるかどうかお聞きをします。

それから、大谷のまちづくりについて市長にお聞きをします。まちづくりの  
主体はもちろん元気いっぱい協議会でいいと思いますが、大事なことは市とし  
てもしっかりと援助もし、必要なお金も出す、これが大事だと思いますので、  
そういう点での御見解を分水の問題も含めてあればお聞きをします。

それから、JR鴨方駅の問題であります。施政方針については結構ですが、透  
明性について答弁がなかったもので、最後お願いいたします。

以上、よろしくお祈いします。

○議長（大西洋平） それでは、雇用と中小企業の経営を守るための対応につ  
いて、そして門前町のまちづくりについて、それからJR鴨方駅橋上化・周辺  
整備に対する透明性についてを市長より答弁を求めます。

どうぞ。

◎市長（田主智彦） アダム・スミスは失業はないと、こういうふうにい  
ました。レッセフェールという言葉を使っておりますが、必ず近代資本主義に  
失業が生じて大変なことになると予言したのはマルクスです。そういう意味  
で、大変歴史上偉大な人物であろうかと思っております。余談事はともかく  
といたしまして、まずその雇用と中小企業の支援のことであります。水際  
立ったとか打てば響くようなものはありません、我々には。また、できる  
わけもありません。こういうものは国や県が十分相談して、市町村にそう  
いう即対応できるようなものをつくるべきだと思います。我々は及ばずな  
がら今産業振興課、今企業交流等を始めているところであります。そこ  
によく今のよう話をしております。こ

ういうことに即対応できるような体制を将来つくりなさいいけないということで勉強をしているわけでありまして。すぐにということになれば社会福祉協議会が3万円お貸しすることができますが、役場はそういう事業がございません。きょう10万円貸してほしいと言われてもお助けすることができないので、そういうことを含めて今後検討したい。気持ちがあるかといえば、それはあり過ぎるぐらいありますが、国や県がまずこういうことはかくあるべしというふうな方針を示してほしいと思います。人間を減らせ、交付税を減らすというだけでは我々には対応能力は出てこないと思います。

それから、2番目に分水の問題であります。これはいろいろ申し上げてると差し支えがあるわけでありまして、冷静にお聞きください。

昭和36年に岡山県西南部上水道期成同盟会、水道をつくろうということで1市4町が結成をいたしました。笠岡市、寄島町、里庄町、鴨方町、金光町です。ところが、その4年後、昭和40年に倉敷市より分水をされました。それは金光町がしたわけです。それに大変笠岡市を初め関係市町村が感情的になったと。昭和43年に西南水道企業団が1市3町で発足したわけです。このことが、もうお詳しい議員さんもおられるでしょうが、笠岡市が金光町へ水道を供給することを反対した最大の理由です。しかし、浅口市となったからということで我々に対してようやくというか、渋々というかお話しもあつたわけでありまして、この間我々は何のことかわからなかった。長い間返事がなかったわけです。うちは申し込んだわけです。ところが、1年数カ月返事がないということから、我々にも含むところがありまして、今日に至っているわけでありまして。

ですから、昭和30年の合併問題、これもまたその感情の底辺にあるような気がいたします。これは議員さんも御承知かと思いますが、鴨方町、六条院町、金光町が合併して金光町になるという決議がなされたわけです。ところが、2月になって金光町が庁舎も金光へ持ってきてほしいということからこの話が破談になったということで、それがずっと私が合併のときに50年ぶりに手形を落としていただくという話をしたのはそのことです。

ですから、そういう歴史というものはいつまでたっても消えないんです。ですが、そういうものを乗り越えて一つの町になったんですから、仲よくしなさいいけない。きょうもいろんなやりとりがありましたけども、やはり何かあるとどうしてもそういう感情問題が出てくる。それはいけないことでもありますので、分水についても事実だけまず申し上げまして6億円、7億円かかる。また、金光町の水道の、言いたくはありませんが、借金が17億円ほどあります。これは繰上償還を四、五億円いたしましたけども、いろんなことで、お話の仕方によって我々も必要以上に感情的になるというか、本当によくないことだと思いますが、私はそういうものをよく承知しながら、時間をかけてよい方向へ今持っていくておりますので、事実だけ申し上げますので、御理解をいただきたいと思います。

3番目に、大谷のことですが、江原区長さんと私も親しい間柄でありますので、時々お話しをします。決定版というのはまだなかなか出てこないようではありますが、支援できるものがありましたら、もちろん手を差し伸べさせていただこうと思っております。

最後に、駅のことではありますが、私も一つの覚悟がありまして、1年延ばそうかと本当は思ったんです。ですが、それをしたらこの話が破談になる。ついでには3億7,000万円です。14億円あるいは18億円の事業ができなくなる。そうなると工業団地もだめになる、道路事業もだめになるというようなことから反省をいたしまして、またきのう、初日に決議がありましたが、お出になった方もお残りになった方も私の部屋へ来られました。そして、冷静になりもう一度浅口市のために、住民のためにこの事業を前に進めなきゃいけないということで、結論を出したわけでございます。また、決議を受けて、より前に進める気持ちになったわけでございます。

いろいろありましたけど、すべて水に流していただければありがたいと思いますし、透明性のことはもちろんJRさんが御説明されると思いますが、何でもお聞きになればいいんじゃないでしょうか。ただ、わかっていたきたいのは我々が長い時間をかけてJRにお願いをしたんです。ですから、JRのためにするんじゃなくて浅口市がお願いをしたわけですから、それは相手に礼を失してはいけません。JRが不可能だということをこっちから持っていくわけにはいかないということでもありますので、その辺を御理解をいただければと思います。

○議長（大西洋平） 御苦労さまでございました。

以上で本日の日程を終了いたしました。

これにて散会いたします。

明日は本会議を9時30分より開議いたしますので、御参集ください。

御苦労さまでございました。

午後0時34分 散会